

やまなしエネルギービジョン検討委員会（第3回）結果概要

日 時 平成27年12月25日（金） 10:00～11:48

場 所 山梨県庁防災新館401会議室

出席者

・委員（50音順、敬称略）

飯山 明裕 窪田 洋二 斉藤 節子 杉本 光男 武田 哲明
中田 直彰 長谷川 隆 鉢呂 友康 松岡 建志 山田 宏一
吉倉 雅人

・県側

エネルギー局長 エネルギー政策課長 エネルギー局主幹
関係課職員（エネルギービジョン庁内検討会議構成員）

協議概要

やまなしエネルギービジョン（仮称）素案について

事務局から骨子案を説明後、各委員から御意見をいただいた。

内容

（事務局） ビジョン素案について説明

（吉倉委員）

全体的な話になるが、2050年にCO₂をゼロにしていくという大きなビジョンがある中で、先日パリのCOP21でも今世紀末までには燃焼系の燃料を使わないような方向にあるので、それよりも50年早く目指していくという方向性は、間違っていないと思う。

環境と併せて、エネルギーの反対側には暮らしや経済行動があるので、経済性も意識しながら考えていかなければ、現実性が伴わないと思う。今回、2050年に至る2030年をターゲットとしたことは、技術的なブレークスルーを踏まえつつ、現実的な解決でまとめられ、バランスが取れた内容になっていると思っている。

また、工場等の経営者などは、リアルなエネルギー政策がなければ、なかなか受け入れられないと思う。そういう意味では、大きな目標に向け、効率的なシステムや考え得るスキームを使ってやっていくのは、基本的な方向性として間違っていないと思う。

（松岡委員）

エネルギーは、様々なところから安定的に供給できる形を取っていくことが大事であり、地産地消を目指すのは素晴らしいことだと思う。また、強靱化、BCPのことも考えれば、地元のエネルギーだけでなく、他県から融通するということも出てくると思う。経済的な面や、電力システム改革の中での電力業者の方々

との関係で、様々なミックスができていくのだろうと思うが、理想としてこういったものを掲げていくのは、よろしいのではないか。

(飯山委員)

のエネルギー需給見通しのところで、電力自給率という言葉で70%という表現は、県民の皆さんにも分かりやすいと思う。今が36%で1/3、2030年が70%で2/3、2050年に100%という道筋を県が示されて、それをクリーンなエネルギーで賄いましょうということで、非常に分かりやすくまとまったと思う。

2点だけ、少し説明があった方がよいと思うのは、自立・分散という言葉で言われているエネルギーの区分けと、クリーンという別の言い方のエネルギーがあり、今回、クリーンエネルギーということで前面に出されているが、自立・分散という言葉も強靱化の意味で地産地消に関係すると思われるので、何か説明をされておくとよいのかなという気がした。

また、すでに議論がなされていて、東京電力さんもご対応されていると思うが、地域の中でエネルギーをつくって使うということになると、地域内のグリッドは大丈夫なのかというような点もあるので、そういった点にも触れていただくと、県民の皆さんに安心を与えることができると思う。

(エネルギー政策課長)

自立・分散や、クリーンエネルギーという言い方は、場面により使い分けをしているが、県民から見た時は分かりにくいということも考えられるので、もう一度そこは見直しながら検討させていただきたい。

グリッドの関係については、国が進めている安定供給体制を踏まえた上でビジョンをつくっているのので、その点への言及はしていない。その点について、何か記載が必要な点があればアドバイスいただければと思う。

(飯山委員)

県民に安心を与えるような言葉があるとよいと思う。

(斉藤委員)

自立・分散型という点について、私は被災地の支援活動をしている中で、ライフラインの復興は影響が大きく、自立・分散型エネルギーシステムは大事であると思っている。ビジョン策定の趣旨の中に、「災害に強い自立・分散型エネルギーシステムの導入促進」が入っているのが、県民のみなさんにも分かりやすくよいと思う。

また、以前から委員のみなさんの意見として、山梨らしさを出したビジョンにしたいという話があったと思うが、そういう意味では、木質バイオマスや水力発電もクローズアップするような形になっていて、よいと思う。

(中田委員)

ここまでまとめあげていただいた事務局のご尽力に感謝する。

何点か申し上げるが、44ページのエネルギー需給見通しの中で、目標として電力自給率70%というのは、バランスもとれ、チャレンジングであり、これ自体に反対するものではないが、エネルギー需給見通しと言いながら、需要の全体の話は出てくるが、それ以降が供給、発電の話だけになってしまっている。この点は、他のエネルギーはどうなっているのかなという気がしてしまう。

それから、環境の関係で、エネルギーは3E+S(安定供給・経済性・環境+安全)が大事であるということで、非常にバランスが取れていると思うが、CO2削減、COP21の話が、基本方針の素案の35ページ、使う側の省エネのところのみ入っているが、エネルギーを取り出す、創り出すということによる排出量抑制という話も大事だと思う。

課題認識としてはあると思うので、基本方針や施策の展開方向のところ、創り出すときにも、そういったことへの配慮が必要だと思う。そこを偏りのないようにしていただいた方がより良いと感じた。

(エネルギー政策課長)

ご指摘の点は、有り難い。需給見通しのところで、電力だけしか書いていないのではないかという点については、46ページに熱換算ということで、電力がベースにはなっているが、山梨県での電力自給率に関して、熱はどうなっているのかということにも触れなければならないということで、こういった整理をしている。全体のエネルギー構成ふれなければ「¥書いてあ

終了